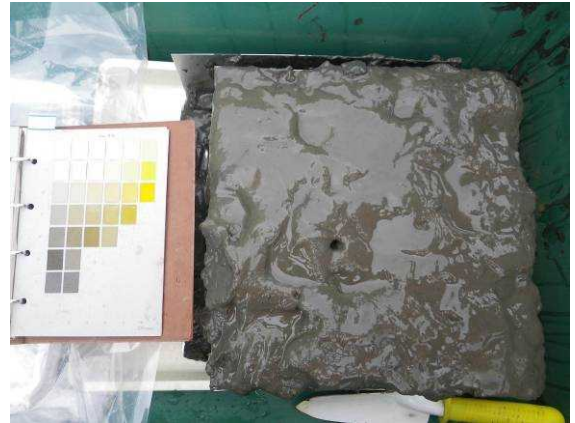


1. 調査方法

定量採集と同地点において、1m² 当たりのアナジャコ類の巣穴の数を計数し、生息数を推定した。なお、干潮時でも冠水などによりアナジャコ類の巣穴が目視確認できない場合は、30cm×30cm×10cm の金属製枠と底板を底質に埋め込み、静かに水面上に引き上げることで、深さ 10cm までの巣穴構造を破壊しないように採泥したのち、巣穴の数を計測し、1m² 当たりの巣穴数に換算した。



アナジャコ類巣穴調査の状況
(干潮時に干潟が現れる地点)



アナジャコ類巣穴調査の状況
(干潮時でも冠水している地点)

2. 調査結果

現地調査時に干潟が干出した調査地点は、St. 1-3、St. 2-1、St. 3-1、St. 3-3 の 4 地点であった。これらの地点のうち、St. 1-3、St. 3-1、St. 3-3 については、干出面積が十分であったため、1m×1m のコドラートを用いて巣穴の計測を行った。また、St. 2-1 については、干出面積が狭かったため、0.5m×0.5m のコドラートを用いて巣穴の計測を行った。

一方、他の地点は、最干潮時でも干潟が干出しなかったため、30cm×30cm×10cm の金属製枠と底板を底質に埋め込み、静かに水面上に引き上げることで、深さ 10cm までの巣穴構造を破壊しないように採泥したのち、巣穴の数を計測した。

アナジャコ類巣穴調査結果を表 3-3 に示す。

1m² 当たりの巣穴数は、20~30 個程度の場所が多かったが、St. 1-3(98 個)と St. 3-1(58 個)では比較的多くの巣穴が観察された。

1m² 当たりの推定生息密度は、アナジャコ類の巣穴の開口部が 2 つあることから、1m² 当たりの巣穴数を 2 で割った数とした。

なお、観察された巣穴は、直径 5mm 強の比較的小さなものが大半を占めた。既存文献によると、新浜湖におけるアナジャコの新規加入個体は 5 月に定着し、6 月には頭胸甲長が 10mm 弱まで成長することが観察されており、観察された小さな巣穴は新規加入個体群のものであると推測された。

表 3-3 アナジャコ類巣穴調査結果

調査項目	St.1-1	St.1-2	St.1-3	St.2-1	St.2-2	St.2-3	St.3-1	St.3-2	St.3-3
最干潮時の水深(cm)	20	30	干出	干出	10	5	干出	15	干出
コドラート面積(m ²)	0.09	0.09	1	0.25	0.09	0.09	1	0.09	1
コドラート内の巣穴数(個)	2	2	98	6	3	2	58	1	26
単位面積当たりの巣穴数(個/m ²)	22.2	22.2	98.0	24.0	33.3	22.2	58.0	11.1	26.0
推定生息密度(個体/m ²)	11.1	11.1	49.0	12.0	16.7	11.1	29.0	5.6	13.0